

登録コード:MH101100		開講年度:2026		市民開放授業	授業科目区分	専攻専門科目	必修
科目名	人体の構造と機能（解剖学）【20M以降】 Human Anatomy						
担当教員	寺田 信生						
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	看護学専攻 1 年 前期 月曜・3 時限						
単位数、講義室	1 単位 多目的講義室					遠隔授業科目	
信大コンピテンシー	該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			授業の達成目標			
	MH20カリ・保健						
	生命を尊び、人間についての幅広い知識を身に付け、対象を全人的に理解して、人々の健康を支援することができる。				人体構造からなる人間の営みの理解から、ヒトの尊厳について考えながら患者に接することができるようにする。		
	MH25カリ・保健・看護、MH23カリ・保健・看護						
	基礎的・専門的な知識と技能 看護専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。				人体構造を分類しながら説明できるようにし、これらが運動しての人体を理解して病態への理解につなげていくことができる。		
授業で学べる「テーマ」	科学的探求力 変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、地域・国際的な視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。				人体構造の実体に基づいて、新事実も理解しながら科学的に対応できる心構えを持って医療が行えるようにする。		
	健康長寿						
全学横断特別教育プログラム							
授業概要	人間のからだを実体に基づいて医学・医療を的確に行うためには、まずは人体の構造を正確に理解する必要があります。この人体構造は、器官系の視点から解剖した分類をもとに理解すると基本的な機能がわかってきます。そこで本授業では、この器官系を構成する臓器の位置や名称を肉眼的に見える範囲を中心として機能と合わせて説明できることを目的とします。そして、それらが運動しながらヒト個体として、どのように働いているかを説明できるようにします。 本授業は、1 年時に学ぶ「生理学」「生化学」などと合わせて人体のしくみを理解し、さらに病態を学んでいくための重要な基礎知識となります。 本授業は、担当教員の医学における人体解剖知識の基礎から病気の診断と治療の臨床にわたって、医師としての実務経験を活かして講義と実習を行います。 本授業は、人体の理解を通して男女の個人としての人権の尊厳についても学ぶ、男女共同参画に関する内容を含んでいます。						
授業計画	第 1 回 (4月13日) 骨格系 1 (頭蓋骨)、神経系 1 (脳神経) 第 2 回 (4月20日) 骨格系 2 (脊椎) 第 3 回 (4月27日) 骨格系 3 (上肢) 第 4 回 (5月 1 日(金)) 骨格系 4 (下肢)、筋系 1 (体幹) 第 5 回 (5月11日) 筋系 2 (上肢) 第 6 回 (5月18日) 筋系 3 (下肢) 第 7 回 (5月25日) 神経系 2 (脊髄と脊髄神経) 第 8 回 (6月 1 日) 前半のまとめ、中間試験 第 9 回 (6月 8 日) 神経系 3 (脳、神経伝導路、自律神経系) 第10回 (6月15日) 消化器系 第11回 (6月22日) 泌尿・生殖器系 第12回 (6月29日) 呼吸器系、内分泌系 第13回 (7月 6 日) 脈管系 1 (心臓) 第14回 (7月13日) 脈管系 2 (動脈、静脈、リンパ) 第15回 (7月27日) 視覚・平衡聴覚器系、授業アンケートの実施 第16回 (8月 3 日) 期末試験 後期に、ご献体を用いた解剖学実習見学を行うことを専攻の教員と予定しています。						
授業の進め方	本授業は、テキストに沿って板書による講義をします。自らが解剖図を描きながら説明をできるように、解剖の位置と名称、そしてその機能をひとつずつ理解できるように進めます。 その理解を行えているかを確認するために、名称を入れながら的確に人体構造を図示できるかについての質問を授業時間中に頻回に行います。						
テキスト, 教材, 参考書	テキスト： カラー人体解剖学（西村書店） 参考書： さらに学習が進むにつれて、写真や図で正確な位置が図示されている、解剖学図譜（アトラス）によって正確な構造の理解を深めていくことが望まれます。 プロメテウス解剖学コア・アトラス（医学書院）など						
成績評価の方法	中間試験(第8回)と期末試験（第16回）に行う、筆記試験によって成績を評価します。評価の配分は、中間試験40%、期末試験60%とし、総計の60%以上の得点を合格とします。						

成績評価の方法	中間試験では第1～7回の、期末試験では第9～15回の内容を主体とします。 試験では、人体構造の名称を器官系の視点から分類でき、機能と共に理解をしているかを、自分で構造の図示もできるかを含めて確認する内容を実施します。試験の結果については、実施後にフィードバックします。
成績評価の基準	中間試験と期末試験の成績評価判定基準は下記のとおりです。 90-100点：秀 80-89点：優 70-79点：良 60-69点：可 これらの採点の基準は、達成目標に関連した設問に対する選択式解答の正誤だけでなく、記述式解答における用語の適切さ、説明内容の範囲の広さや詳細さ、説明内容の論理的な妥当性などを指標とし、授業で説明した範囲における、最低限の解答内容であれば「水準にある」、やや詳細な解答内容であれば「やや上にある」、十分に詳細な解答内容であれば「かなり上にある」、授業で説明した範囲以上に自身で能動的に学修した詳細な解答内容であれば「卓越している」と判定します。
事前事後学習の内容	[事前学習について] 毎回、授業の終わりに、次回までに調べてくる内容について説明を行います。 [事後学習について] 毎回、授業のはじめに、前回の授業の要点について質問を行いますので、自分の言葉で端的に分かりやすく説明できるように準備して授業に臨んでください。 本授業の単位修得には、45時間の学習が必要であるため、以下のような学習時間を必要とします。 授業時間30時間（2時間×15回）＋自己学習時間15時間（1時間×15回）＝45時間 以上の自己学習時間を考慮して、事前・事後学習に意欲的に取り組んでください。
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	人体の構造（すなわち自分のからだのしくみ）を、正確に理解して説明ができる楽しさを実感してください。 先人が名づけてきた多くの名称には、機能をもたらす部位として大切な意味があるので、医療専門家として早く身につけて利用ができるようにしましょう。 質問への対応：寺田 信生 nobuot@shinshu-u.ac.jp オフィスアワー：対応時間については、上記のメールアドレスに確認してください。 保健学科南校舎3階 寺田研究室